

八戸

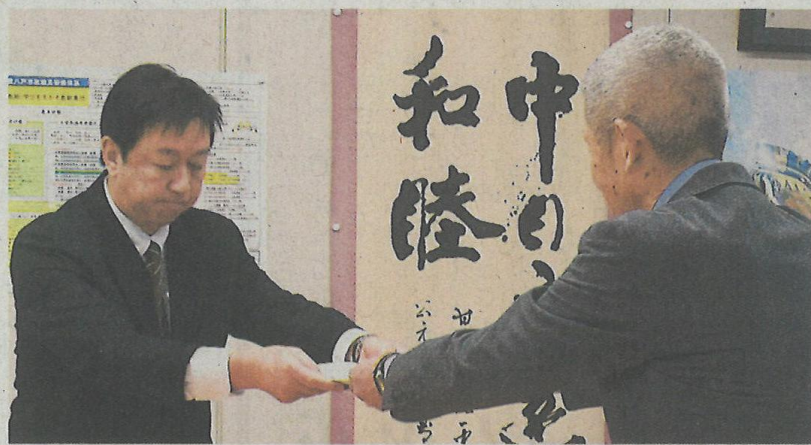
八戸市地域スポーツ・文化活動検討協議会(会長・木村浩哉八戸学院大教授)は17日、市立中学校の休日部活動を地域のスポーツ、文化芸術団体に委ねる「地域連携・地域移行」を円滑に進めるための検討事項をまとめた報告書を、市教育委員会に提出した。市教委は2029年度を目標に可能な範囲で段階的に地域移行を行う方針で、25年度から推進体制や会費、活動場所、指導者の確保などについて具体的な検

推進体制や会費 検討課題

中学部活地域連携 協議会、市教委に報告書

討を進める。

同協議会はスポーツや文化芸術団体、学校、PTA関係者らで組織。23年度から課題の洗い出しを進めるとともに、児童生徒と保護者、教職員を対象としたアンケートや、陸上競技と美術・総合文化部門の「合同部活動」一試行に取り組んだ。報告書には今後の具体的な検討事項として▽市長部局と市教委の連携による専門部署設置▽指導者や運営者への支援、金銭的な補助▽平日部活動



齋藤教育長(左)に報告書を手渡す木村会長

の地域移行の在り方▽指導者確保に向けた市独自の人材バンク設置の必要性などが盛り込まれた。

同日、市庁で齋藤信哉教育長に報告書を手渡した木村会長は「地域移行・展開が将来的に、中学生だけでなく子どもから高齢者、障害者を含めた地域コミュニティづくりにつながれば」と期待感を示した。

市教委によると、来年度の中学校部活動は引き続き学校主体で運営・実施し、並行して合同部活動の拡充を進める。

(千葉真由美)